産官学連携フェスティバル２００８　ポスター発表申込書･要旨原稿

テーマ　一般廃棄物の減量化に係る諸政策の体系的整理と戦略的取組みの研究

発表者　岡崎誠　鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科　教授

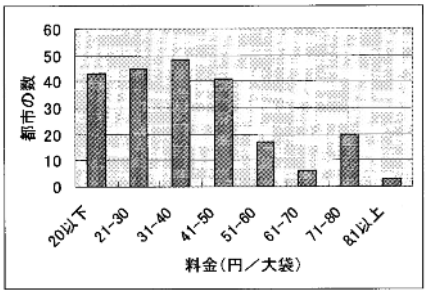
概　要

一般廃棄物の減量化は、全国各都市において重要な課題とされているが、実際には、明確な目標を設定しそれを目指して幅広く施策を検討し、施策のコスト、効果、問題点などを見通した上で、総合的、長期的ビジョンのもとに計画的、戦略的に取組んでいる例は少ないとの指摘もなされている。そこで本研究では、今後さらに家庭ごみの排出量を抑制していくためにもう一度現行の施策を洗いなおすという立場に立って、行政現場に役立つ応用的な成果を得ることに力点を置いて総合的施策の策定方法を検討していく。

本研究は２か年計画で取組んでおり、平成１９年度はその初年度であった。したがって基本的には各種の基礎資料を収集することが業務の中心となっており、当初計画どおり、①一般廃棄物減量化施策の体系的整理、②一般廃棄物減量化施策のコストと効果の調査、③生ごみの自家処理・リサイクルに関する調査を実施した。その結果の要点は下記のとおりである。

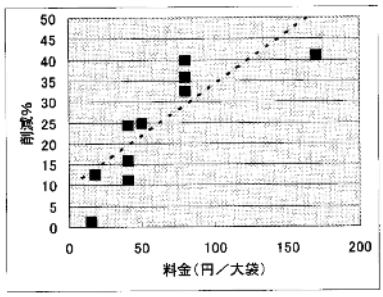
表　一般廃棄物減量化施策の体系的整理

| 施策の区分 | 具体的な施策例 |
|---|---|
| ①市民の知識普及・環境教育 | 不法投棄・ポイ捨て撲滅キャンペーン、クリーンアップイベント開催、グリーンコンシューマーの情報提供、美化・清掃活動、出前教室、ポスター・標語コンテスト、ごみゼロアイディアコンテスト、エコライフファミリー、「ごみ減量のための○○ルール」、「○○は６３０」、レジ袋削減推進、エコ&リサイクルフェスティバル、マイバックキャンペーン、減量化リサイクル演劇、「○○エコライフ宣言」、ごみ減量アドバイザー、「もったいない○○県民運動」、エココミュニケーション実践事業、「ごみゼロ○○推進隊」、移動食器洗浄車、ごみパトロール隊、ごみの分け方・出し方ビデオ、ボランティア清掃袋、廃棄物会計、廃食用油石鹸作り、 |
| ②市民、事業者の活動支援 | 協働容器回収システム構築支援、古紙・ビン・缶等資源集団回収の支援、エコショップ認定制度、3R 製品開発補助、ごみゼロトップランナー支援事業、リサイクル推進認定制度、ごみ減量はじめの一歩事業、リサイクル施設整備費助成制度、古紙回収ボックス・古紙回収協力店、生ごみ処理機器購入費助成、リターナブルビンの拠点回収、校区紙リサイクルステーションの設置、エコ村づくり支援事業、リユース取り組み支援、環境産業コーディネーター、資源回収団体奨励金支給制度、フリーマーケットの開催、 |
| ③自治体が率先して実施 | グリーン購入推進、県庁・役場のごみ削減作戦、市役所ごみゼロの推進、小学校給食残さのリサイクル、 |
| ④自治体が施設を整備 | 資源ごみ回収拠点の整備、ごみステーション設置、リサイクル工房、資源循環工場の整備、エコロジーパーク構想、食用油処理施設整備、再生品展示室、生ごみ堆肥化センター設置、 |
| ⑤ルール、仕組みづくり | 分別収集(品目、分別数、回収頻度、・・・)、コミュニティ回収制度、有料指定ごみ袋制、オムツ専用収集袋無料配布、リサイクル製品認定制度、不用品ダイヤル市、ふれあい収集、分別推進員・立ち番、環境市民ファンド、再資源化ルートの開発、 |
| ⑥その他 | 循環型社会ビジネスの振興、地域ゼロエミッション推進事業、エコファクトリー立地推進事業、バイオマス利用促進、エコタウン事業、エココミュニティ事業、住民・事業者・行政の推進協議会、資源循環広域システム構築事業、リサイクル製品使用促進事業、木質バイオマスリサイクル事業、生ごみ堆肥化事業、リサイクル関連企業の誘致・立地促進、算定検資源化推進、生ごみ処理モデル事業、 |




注）東洋大学・山谷修作が２００５年２月に実施した全国の市区を対象とした調査結果データをもとに解析したもの

図　ごみ有料化の料金分布




注）ごみ有料化実施状況の報告が入手できた１２の都市のデータをもとに解析したもの
（プロットが近接なっている都市が２点ある）

図　ごみ有料化の料金と削減効果

【来場者へのメッセージ】

本年度（２０年度）に目的としたアウトプットに向けて努力していく予定です。

連絡先：鳥取大学環境情報学部環境政策学科　教授　岡崎誠

鳥取市若葉台北１－１－１　　TEL．0857－38－6754　E-meil: okazakim@kankyo-u.ac.jp

| 分　野 | 環境 |
|---|---|